

研究・イノベーション学会 第35回年次学術大会
公開企画セッション

「大学ファンドレイジングを考える」

開催日時：2020年11月1日 18時-19時30分（オンライン開催）

大学を取り巻く環境は厳しい。学術分野におけるグローバル競争の激化と我が国の厳しい財政状況は、教育・研究環境の整備、優秀な教職員の確保など大学経営のあらゆるところに深刻な影響を与えている。外部資金獲得による財政基盤の強化のため、産業界のニーズが高い分野への資源の集中、研究成果の事業化、およびそれらを支える制度改革に大学が力を入れることは当然であろう。

一方でSDGsや地域活性化など社会課題における大学への社会的期待もますます高まっている。これらに対する取り組みは、中長期的なものにならざるを得ず、プロジェクトの成果の受益者は地域や世界といった漠然としたコミュニティーであり、事業化プロジェクトのように特定の受益者が活動経費を負担するというスキームの中で継続して実施されることは困難である。

このような中、多様な教育・研究活動の推進の財源確保方法として注目されているのがファンドレイジング、すなわち寄附の戦略的な受入である。多くの大学で経営戦略の柱としてファンドレイジングの活性化を位置づけており、クラウドファンディングなどを専門会社と連携して行う事例も増えてきている。そしてファンドレイジングの中核を担う専門職がファンドレイザーである。

本セッションは、1) 現役ファンドレイザーと2) 研究プロジェクトの支援を担当するURAが話題提供を行い、参加者とファンドレイジングにおける専門職の果たすべき役割と課題、専門職間の協働のあり方について考える場を提供することを目的とする。大学におけるファンドレイジングをテーマとした研究は我が国ではすくない。このセッションをきっかけに研究者、教育者、および実務家による熟議と成果の公表がすすむことを期待する。

講演者

渡邊 文隆氏（公益財団法人京都大学 iPS 細胞研究財団 社会連携室長／京都大学経営管理大学院博士後期課程）

「大学ファンドレイジングを考える」

原田 隆氏（東京工業大学 情報理工学院 主任リサーチ・アドミニストレーター）

「URA とファンドレイザー」

当日の報告資料は次から入手可能です。

https://watanabefumitaka.blogspot.com/2020/10/blog-post_27.html